

(イ) デジタル化の効果

表5は、デジタル機器を使いこなしている人とそうでない人の間で、仕事の状況についてどのような差が見られるかを確かめるために作成したものである。17の質問すべてではなく、デジタル機器使用の影響が特に強く出ている7項目についてまとめた。

「当てはまる」という回答に注目して、デジタル機器を使いこなしている人がそうでない人に比べてどれだけ上回っているかを計算すると、以下のようになる。これは、因果関係を示すものではないことに注意されたい。

- 「仕事の手順を自分で決められる」 11.5 ポイント、
- 「自分の仕事のやり方を工夫できる」 14.7 ポイント、
- 「上司とのコミュニケーションは良好」 11.2 ポイント、
- 「職場メンバーとのコミュニケーションは良好」 10.5 ポイント、
- 「前向きに仕事に取り組んでいる」 21.0 ポイント、
- 「事務所内の4 S等を行っている」 16.4 ポイント、
- 「成果を出すのに多くの時間を要する」 9.3 ポイント

なぜこれだけの差が生まれたのだろうか。特に、仕事に前向きに取り組んでいる点についての両者の差は、21.0ポイントになっているのはなぜか。考えられる仮説としては、もともと仕事に前向きに取り組んでいた人が、デジタル機器という便利な道具を使うようになって、さらに前向きになったというものである。デジタル機器を使いこなせていない人が使いこなせるようになると、仕事に前向きに取り組むようになる割合が高まるかどうかはわからない。しかし、両者に正の相関があることから、デジタル機器を使いこなせるように訓練すると、仕事への取組姿勢が良い方向に変わることが期待できるのではないだろうか。

事務所内の4 S等を行っている点も、デジタル機器の使用が良い効果を生んでいるようである。デジタル機器を使うには業務を整理して、デジタル機器に乗りやすいようにすることが必要であり、それが4 Sにつながっていると考えられる。

デジタル機器を使いこなしているか否かによる差が3番目に大きいのは、「自分の仕事のやり方を工夫できる」である。もともと仕事のやり方を工夫している人が、デジタル機器を使うようになってさらに工夫が進んだと考えることができる。ただ、デジタル機器を使って自分の仕事を楽にするにはどうすればいいかという視点で仕事を見直すことが、働き方に良い効果をもたらす可能性がある。

表5 デジタル機器の利用と仕事の状況

		仕事の手順を自分で決められる			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	46.6	46.4	6.5	0.4
	使いこなしていない	35.1	54.2	10.0	0.7
		自分の仕事のやり方を工夫できる			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	63.4	34.2	2.1	0.2
	使いこなしていない	48.7	43.7	7.2	0.5
		上司とのコミュニケーションは良好			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	54.2	39.9	4.6	1.3
	使いこなしていない	43.0	41.5	12.2	3.3
		職場メンバーとのコミュニケーションは良好			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	52.7	42.2	4.6	0.4
	使いこなしていない	42.2	46.8	10.3	0.7
		前向きに仕事に取り組んでいる			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	50.8	41.6	6.7	0.8
	使いこなしていない	29.8	55.1	11.9	3.1
		事務所内の4S等を行っている			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	51.5	38.9	9.0	0.6
	使いこなしていない	35.1	43.7	19.3	1.9
		成果を出すのに多くの時間を要する			
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	当てはまらない
デジタル 機器	使いこなしている	42.0	50.6	6.5	0.8
	使いこなしていない	32.7	53.2	13.1	1.0